



高崎経済大学地域科学研究所 ニュースレター No. 2 2

目次	所長挨拶	(1)
	事業報告① 第16回地元学講座	(1)
	事業報告② 第6回あすなろ市民ゼミ	(2)
	研究プロジェクト進捗報告	(5)
	地域科学研究所動静	(13)
	編集後記	(13)

所長挨拶

所長 佐藤 徹

本ニュースレターには、高崎経済大学地域科学研究所の事業のうち、第16回地元学講座、第6回あすなろ市民ゼミ、および研究プロジェクトの進捗状況についての概要報告等を掲載いたしました。是非、ご一読ください。

市民の皆さまには、今後とも、当地域科学研究所の事業に積極的にご参加いただくとともに、より一層のご理解とご協力を引き続きお願いする次第です。

事業報告① 第16回地元学講座

このたび志尾睦子氏をお呼びすることができ、20年来の宿願を果たすことができました。

2003年、本学の経済学会から、私が理事として主導し、新入生向けに『Intro ～学びへのいざない～』を創刊しました。当時（実は現在も）、私は、本学学生の自己肯定感の低さが気になっていました。不本意入学のゆえか、「高崎ではダメだ」といった考えに支配されているように感じられたのです。たとえ高崎でも存分に活躍できることをどうしても証明したくて、「高崎映画祭」と「シネマテークたかさき」を創設した茂木正男氏にお話を伺いに、「シネマテークさかさき」まで出向きました。開館から1年ほど経った2005年

のことだったと思います。

もっとも、当時茂木氏は多忙を極め、本学学生のために話したり書いたりしてもらうことは叶いませんでした。2008年7月には、東京芸術大学の堀越謙三教授らが中心となって「街なか映画館を残す、大量宣伝・大量消費から秀作、作家の映画を救う、上映環境の地域格差をなくす、優れた観客を育てる」を目標に掲げた「シネマ・シンジケート」が発足し、茂木氏はその副代表となりますが、同年11月15日に亡くなってしまいます。

一方、志尾睦子氏は、学生時代に卒業論文執筆のために参加した「高崎映画祭」の活動をきっかけに、2004年、NPO法人たかさきコミュニティシネマの設立に関わります。同年12月には、上述した群馬県内初のミニシアター「シネマテークたかさき」が開館しますが、2008年に茂木氏が他界。志尾氏はその遺志を受け継ぎ、同館の総支配人となって現在に至っています。そして、2023年6月、「コミュニティシネマ憲章—地域における豊かな映画環境の創造のために—」を掲げ、全国のミニシアターや映画祭などで作る一般社団法人「コミュニティシネマセンター（2003年10月設立、2009年4月一般社団法人に移行）」の代表理事に就任されました。

講演では、NPO法人たかさきコミュニティシネマの設立、「高崎映画祭」と「シネマテークたか

さき」の運営、高崎フィルム・コミッション事業の開始、高崎電気館の再生といったさまざまな挑戦と創造、加えて、コロナ禍による映画館の休館、高崎映画祭の開催見送りといったさまざまな苦難と超克についてのお話を伺い、この間の志尾氏の奮闘と努力、そして映画と映像文化に対する深い愛情と高い理念を十分に知ることができました。



＜第 16 回地元学講座 志尾 睦子 氏＞

群馬交響楽団の草創期を描いた映画「ここに泉あり」が製作されたのが 1955 年。それから今日までの約 70 年間に、全国各地に一つの建物の中に複数の上映室（スクリーン）を有するシネマコンプレックスが出来、上映素材はフィルムからデジタルへと移行しました。一方、各家庭ではテレビ放送に加えてレンタルショップも増加し、記録媒体も VHS ビデオから DVD・Blu-ray へと移行しました。現在ではサブスクリプションによる動画配信が主流になりつつあります。Wi-Fi 環境とスマホさえあれば、どこにいても映画が見られる時代になりました。これからの映画と映画館は、こうした社会の変化にも即応し、共存共栄の道を模索していかなければなりません。

本講演は、高崎から発する映画と映像文化の発展について考える貴重かつ重要な機会になったと自負します。

高松 正毅（経済学部教授）

事業報告② 第 6 回あすなろ市民ゼミ

高崎中心市街地・さやもーるにあり、高崎経済大学の学生が運営している「cafe あすなろ」の 2 階を使用して、今年度も「あすなろ市民ゼミ」を開講しました。

◎第 1 回：9 月 13 日（水）開催

「人口減少で地域のビジネスは
どのように変わるのか？」

講師：山本 匡毅 所員（地域政策学部教授）

あすなろ市民ゼミでは、毎年、様々なテーマで市民と一緒に専門書を用いながら、議論を行っています。当方が担当した 2023 年度第 1 回（9 月 13 日（水））は、5 人の参加者を得て、「人口減少で地域のビジネスはどのように変わるのか？」をテーマに議論しました。テキストは、河合雅司著『未来の年表 業界大変化：瀬戸際の日本で起きること』（2022 年刊、講談社現代新書）を使用しました。

日本では全国で人口減少が進んでおり、中でも地方圏の人口減少は、大都市圏に比べて、人口減少の速度が速くなっています。群馬県でも町村を中心に人口減少が顕著ですが、人口減少は、単に人口が減るだけではなく、経済の観点からは、地域経済の需要減少をもたらし、地域のビジネスの存立基盤を脅かすこととなります。そこで今回は、人口減少によって「地域のビジネス環境はどのようになるのか？」について、高崎市を対象としながら、明らかにすることを最終的な目的としました。

最初に担当教員から自己紹介を行った後、参加者から各自の紹介をしていただきました、次に担当教員からテキストの解説を、スライドを用いて行いました。一番のハイライトは、参加者に出していただいた論点のディスカッションです。参加された市民の皆様には、事前課題として、「テーマについて、テキストを読んで論点を 3 点まとめてください」という宿題の提出をお願い致しました。参加者は様々なバックボーンをお持ちで、多

くの論点を提示して頂き、積極的に議論へ参加していただきました。

市民ゼミ終了後には、履修者全員から事後レポートの提出がありました。各々の問題意識から、人口減少の下での地域ビジネスを深掘したものになっています。すべてのレポートには担当教員からコメントを付し、フィードバックをお返ししました。これからの生活、仕事、研究の場で、今回の議論を活用していただきたいと思います。



＜市民ゼミの様子 講師：山本 匡毅 所員＞

担当教員は大学教員をする中で、いくつかの大学で市民向け講座を数回、担当したことがあります。しかしながら、少人数の演習形式で、テキストを輪読し、議論を深めるという形態は初めてでした。かかる生涯学習の形態は、大学の魅力を知って頂き、学問の面白さを知って頂く機会として貴重なものだと感じました。次年度以降も市民の皆様にあすなる市民ゼミを活用していただき、高崎経済大学が持つ「知」を市民の方と共有していくことができればと思います。

山本 匡毅（地域政策学部教授）

◎第2回：9月27日（水）開催

「成年後見制度の現在」

講師：谷口 聡 所員（経済学部教授）

地域科学研究所の恒例の企画、「あすなる市民ゼミ」が、高崎経済大学の学生が運営する「カフェ・あすなる」において「成年後見制度の現在」という題名の下実施された。ゼミの時間自体は2時間であったが、事前に私の方から課題を提示し

て参加者には宿題としてやってきてもらい、当日はその内容を検討しながらディスカッションをするという形式で行われた。また、実施後には、レポート課題も提出してもらおうというものであった。私の担当した「成年後見制度の現在」には、当日4名の参加者が出席した。

成年後見制度は、民法典の従来の規定を大幅に改正しつつその他の立法と合わせて、2000年にわが国で発足した制度である。未成年者は民法はじめ様々な法律において保護されるが、成年においても、特に認知症の高齢者などが典型例であるが、判断能力が十分ではない人たちを保護しようとする制度である。家庭裁判所の審判を受けた成年被後見人は、選任された後見人によって財産管理などの面で保護を受けることになる。

当日の4名の参加者の方々は、それぞれこの制度と関りのある方々であり、市民後見人として職務に就いている方や、ご親族においてこの制度の利用を考案中の方、また、高崎市の地域のリーダーの方などであった。いずれの方も成年後見制度に高い関心を寄せられており、担当講師の私にと



＜市民ゼミの様子 講師：谷口 聡 所員＞

っても非常に有意義なゼミの時間となった。

ゼミのディスカッションにおいては、「成年後見制度など社会は必要としてないのではないか」といった懐疑的な意見や、「選任された後見人の職責は重いので担い手が少なくて困る」といった意見、さらには、「後見人の不正行為をどうやって防止するのか」など、実務上の実践的意見や制度の問題点などにも議論が及んだ。休憩の5分を挟んで白熱した議論が交わされたが、テーブルの一定のコンセンサスも作り上げることができた。

それは、成年後見制度のみに偏った保護をするのではなく、判断能力が不十分な人たちについては、後見人のみならず、親族や地域社会全体で支援して行くことが重要であるとの認識であった。そのような社会を作り上げるために、国民全体が保護を必要とする人たちを助けようとする精神文化が醸成されなければならない、といった結論であった。

私も民法の研究教育に携わってきて、日本成年後見法学会の席をいただいて 20 年以上になるが、高崎市民がこの制度に実際の肌感覚としてどのような意識をもっているのか、また、どのような課題点を市民目線から提示するのかを楽しみに当日に臨んだが、その意味で、参加者にとっても私にとっても充実した実りの大きい 2 時間となった。

あすなる市民ゼミの今後に大いに期待したい。

谷口 聡 (経済学部教授)

◎第3回：10月11日(水)開催

「政治分野における男女共同参画」

講師:増田 正 所員 (地域政策学部教授)

今回、私があすなる市民ゼミで取り上げたのは「男女共同参画」(ジェンダー関連)分野であった。この分野の場合、講師は女性で、聴衆も女性というのが多い。講師が男性、しかも対象が政治ということで、今回の市民ゼミには参加者数が少ないかもしれないと思っていたら、案の定そうだった。それならなぜ、敢えてこの分野にしたのかといえば、「政治分野における男女共同参画に関する法律」が改正されたことが大きい。日本では、あまりに女性政治家が少なすぎるため、女性の政治家を増やすために、国家や地方公共団体(自治体)の施策が強化されたのである。

遡れば、私は高崎市男女共同参画審議会の会長職を 8 年間務めた経緯があり、まず高崎市から令和 5 年 2 月に、市民向けの講演(「女性の政治参画で政治は変わる」)を依頼された。次いで、9 月

には、主権者教育アドバイザーとして鳥取県に呼ばれ、地域の女性団体を前に同じ趣旨の話をした。その意味では、10 月 11 日のあすなる市民ゼミは、個人的には男女共同参画政治編の第 3 弾ともいうべきものであった。

市民ゼミのテキストに指定したのは、岩波新書の『さらば、男性政治』(三浦まり)で、2023 年 1 月に発刊されたものであった。たしかに、若者の読書離れが叫ばれるようになって久しいけれども、新書であれば読みやすいし、大学生などの初学者にはぴったりだと考えた。しかも、著者は政治学者なので、政治制度の理解も的確だった。

男女共同参画の分野が、女性だけの「片肺」分野であるなら、その圏外に置かれた男性には最初から影響するはずがない。そこにこの種の講演の可能性(女性へのエンパワメント)と限界がある。

ゼミ紹介文では、「なぜ政治家には女性が少ないのか、女性を増やすにはどのようなことが必要なのか、参加者で議論します」とした。実際、講師から促す形で、参加者の意見を述べてもらうことには成功したものの、参加者間での活発な討論は実現できなかった。とくに男性政治側に立った異論や反論がなく、自然とテキストの内容をそのまま肯定することになった。その点は、担当講師の力量不足と反省している。



<市民ゼミの様子 講師：増田 正 所員>

今回、参加者の皆さんには、事前課題、事後レポートに取り組んでもらい、テキストを通じて「政治分野における男女共同参画」について、さらに深く考えるきっかけが得られたはずである。今後も、市民ゼミの続編として、まわりの人々とさらに議論していってくれることを願っている。

増田 正 (地域政策学部教授)

◎第4回：10月25日（水）開催

「経済学で読み解く人々の行動：

伝統的な見方と新しい見方」

講師：中野 正裕 所員（経済学部准教授）

2023年10月25日に開催されたあすなろ市民ゼミ『経済学で読み解く人々の行動：伝統的な見方と新しい見方』を担当しました。今回は2名の方に参加いただきました。ゼミでは『行動経済学の処方箋 働き方から日常生活の悩みまで』（中公新書）を課題図書として、主に第1章から第3章までの内容を中心に、簡単な解説や事前に提出いただいた課題に言及しながら講読を進めました。本書は、行動経済学の入門書として他の専門書よりも平易で予備知識をそれほど必要とせず、またコロナ禍において人々の行動変容を促すための政府の取り組みと効果についての解説が詳しく行われており、今回の課題図書にふさわしいと考えました。行動経済学と聞くとやや難しい学問のように感じる人もいますが、今回のゼミでは人々の行動変容（マスクをしてもらう、三密を避ける、など）を促すために認知のバイアスやヒューリスティクスを活用する行政上の工夫を中心に議論を進めました。



＜市民ゼミの様子 講師：中野 正裕 所員＞

参加された2名の受講者とお話して興味深く感じたのは、行動経済学や行動心理学が取り上げる人々の「バイアス」の存在が、一般の方々にも比較的詳しく知られるようになったことです。また近年では行動経済学の知見を活用しながら、

ナッジ（nudge）とよばれる人々に行動変容を促す工夫も普及しつつあります。日常生活の中でも相手の行動をそれとなく促すいくつかの試み（コロナ禍の例として、間隔を空けて立ってもらうために地面に印をつける、部屋の入り口に消毒液をおく、など）が日本では比較的目に留まる例として挙げられますが、その他にも受講者自身の体験や感想をもとにナッジの効果について様々な意見を出していただき、教員にも参考となる対話の機会を得ることができました。

ゼミの後に感想を含めてレポートを再度提出いただきましたが、受講者により大学の市民向け講座（公開講座や市民ゼミ）に求めることが多様であると感じました。しかし、今回のゼミのように事前、事後の課題を設定して市民の学びのニーズを把握する、また講座の趣旨や教材のレベルを受講者に分かり易く伝えておくといった工夫が今後も有効であると感じました。ゼミに参加していただいた受講者の方々に感謝申し上げますとともに、来年度以降も機会があればより充実したゼミを実現したいと考えております。

中野 正裕（経済学部准教授）

研究プロジェクト進捗報告

「高崎経済大学周辺の地域交通と

その将来性に関する研究」に向けて

今年度から上の課題名で研究プロジェクトを開始させていただくことになりました。本プロジェクトは、高崎経済大学周辺（六郷地区・豊岡地区など）における地域交通に関して地域政策学・交通学・都市計画学・地理学・経済学などの学際的な見地から総合的に捉え、現状を把握した上で、問題点や将来に向けた改善の方向性について分析を行い議論・提言をしようとするものです。

本研究に先行するものとしては、研究所が直接所管するプロジェクトではなかったものの、2015年度に本学内において進められた「信越線

新駅設置可能性調査研究プロジェクト」が挙げられます。その際は学生や地域住民の方々へのアンケート調査などをもとに、周辺地区に新駅が設置された場合の需要推計などがなされました。新駅設置の要望は昭和期以前から存在しましたが、これらの動きなどを機に、高崎市が2018年により本格的な住民アンケートを開始するなど、新駅設置構想が具体化してきた経緯があります。

本プロジェクトにはその当時のメンバーも多く入っていますが、新駅設置がほぼ確定し駅前広場の建設も始まった今、単に鉄道新駅だけをテーマとする研究ではなく、より幅広く、大学周辺については全国の都市近郊部における地域交通、関連する都市計画や地域活性化事業の将来性を柔軟な視点で考察できるようなプロジェクトにしていきたいと考えています。なお、新駅設置に関わる現実の計画・建設においては周辺住民の方々や鉄道会社・行政関係者間で慎重に調整が進められている時期であることにも配慮し、研究や提言にあたってはそれら現実との適切な「距離」を維持したい、つまりは現実に対して有益性を持つものであろうとすると同時に、利害関係の絡む個々の案や進捗状況などには過度に深入りせず、あくまでも研究者の立場から将来の理想像をいくつか提示する、という姿勢でありたいと思います。

本プロジェクトが対象とする地区の特徴としては、公共交通や自転車・徒歩交通などが自然に成立するかもしれないかがちょうど問われるような、中規模都市の近郊部であることが挙げられます。つまり、放っておいても民営企業によって交通サービスが提供され黒字となるような大都市の中心部などではなく、また公的支援なしでは明らかに赤字となりサービスが提供されないような過疎地域などでもない、ついこの間まで民営バスなどの経営が成立していたが、近年は厳しさが増しているような、両者の半ばに位置付けられるような地区を対象としています。六郷地区と豊岡地区は1950年代に高崎市に編入された、戦前からの

「旧市内」ではないが比較的古い辺縁部にあたります。地区内を基幹的な国道や鉄道が通過しているものの、これまで必ずしも地区内交通の利便性が優先されてきたわけではありません。そのような、さまざまな意味で「中間色」に映り見過ごされがちな地区に、実際には数多くの住民や学生が生活しており、人々の厚生は交通の利便性に大きく依存しています。

新駅設置やこれにともなう地域交通の改善、関連する都市計画や地域活性化事業により、人口減少問題が顕在化し始めた今日において、こうした日常生活の中心的な場所ともいえる地区においてどの程度厚生の改善が可能となるかが、本プロジェクトの中心的なテーマです。初年度においては、すでに外部の方もお招きして2回の研究会を開き、メンバーの先生方による調査なども始まっています。

プロジェクト代表

米本 清 (地域政策学部教授)

第16回地元学講座（映画のまち・高崎 いままでとこれから）アンケート調査結果報告

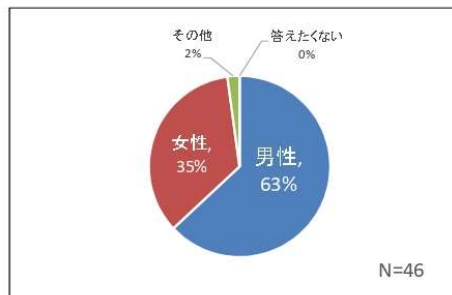
2023/10/17の講座終了時にアンケート調査を実施した。
[有効回答数：46人（回収率：71.88%）]

参加人数 64名

問1. 性別

【単位:人】

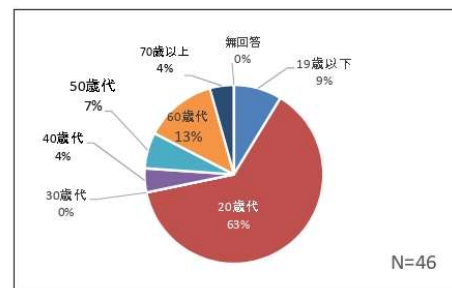
男性	29
女性	16
その他	1
答えたくない	0
合計	46



問2. 年齢

【単位:人】

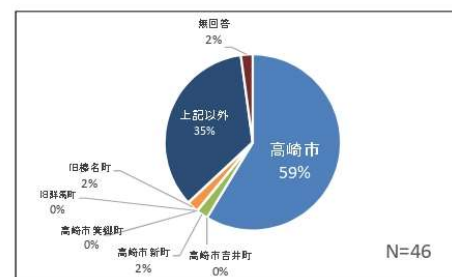
19歳以下	4
20歳代	29
30歳代	0
40歳代	2
50歳代	3
60歳代	6
70歳以上	2
無回答	0
合計	46



問3. お住まいの地域

【単位:人】

高崎市	27
高崎市吉井町	0
高崎市新町	1
高崎市箕郷町	0
旧群馬町	0
旧榛名町	1
上記以外	16
無回答	1
合計	46



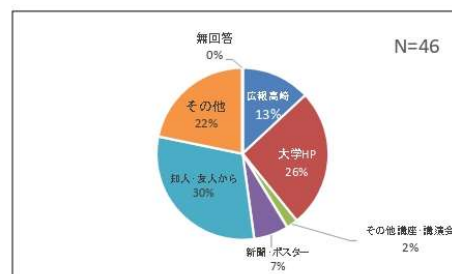
※上記以外

前橋市 5名、伊勢崎市・安中市 各2名
渋川市・藤岡市・沼田市・東吾妻町 各1名
埼玉県・栃木県 各1名、地域回答なし 1名

問4. 本講座を知ったきっかけ

【単位:人】

広報高崎	6
大学HP	12
その他講座・講演会	1
新聞・ポスター	3
知人・友人から	14
その他	10
無回答	0
合計	46



※その他

ゼミの教員の紹介、ゼミ活動、学内で、大学からのメール等

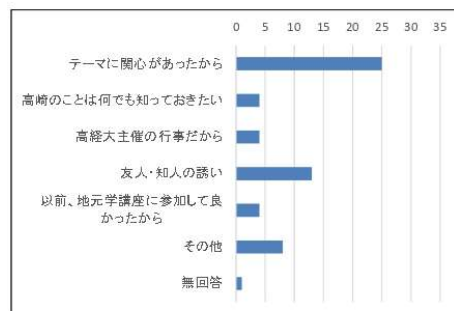
問5. 受講の動機（複数回答可）

【単位:人】

テーマに関心があったから	25
高崎のことは何でも知っておきたい	4
高経大主催の行事だから	4
友人・知人の誘い	13
以前、地元学講座に参加して良かったから	4
その他	8
無回答	1

※その他

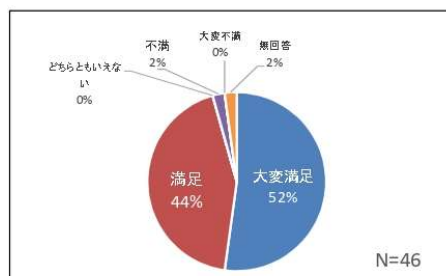
- ・卒論のテーマに関係するものだから
- ・映画が好きだから
- ・ゼミの活動として、ゼミ活動の一環として、ゼミの教授の勧め
- ・高崎中央公民館活動の一環として、今回の講師の志尾さん呼んで話をしてもらおうという事があがっていたから。



問6. 満足度

【単位:人】

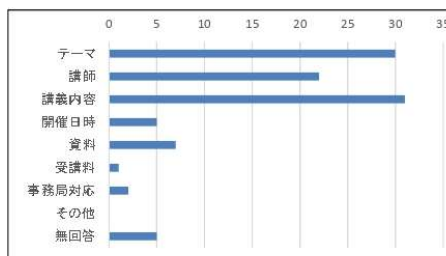
大変満足	24
満足	20
どちらともいえない	0
不満	1
大変不満	0
無回答	1
合計	46



問7. 問6で「大変満足」「満足」とお答えいただいた方の評価する点（複数回答可）

【単位:人】

テーマ	30
講師	22
講義内容	31
開催日時	5
資料	7
受講料	1
事務局対応	2
その他	0
無回答	5



- ※ 私は映画が大好きで、年代や作成国、ジャンルを問わず多くを観ています。そのため今回、高崎を中心とした映画について知ることが出来てとても良かった。
- 市の文化課のインターンシップでも、映画に関係するところに連れて行ってもらったこともあり、観たくなった。
- ※ 高崎の町が映画製作に沢山関わったことに驚いた。
- ※ 高崎と映画の繋がり、歴史について、わかりやすく説明していただいた。
- ※ 高崎市広報課、高崎FCの方に卒論をテーマに、取材させていただいたが、また新たな発見ができたため満足です。
- ※ 冒頭、「高崎なんて」という学生に、高崎愛を根づかせたいと先生が言っていました。
- 今日の講演が、その一助になったと思います。何としても映画館へ来てもらう、来させる努力を！私はメンバーになっています。映画を見て「あは体験」、老人にもいいです。
- ※ 高崎と映画の関わりについて、詳しく知ることができました。
- ※ 質疑応答を含め、非常に中身の濃い、興味深い話を聞けたと感じる。
- ※ 映画を通して、地域を活性化させることに繋がる、というお話がとても印象的であった。
- よく、私は高崎電気館やシネマテークたかさきを利用していただいているので、今回のお話はとても聞いていて魅力的でした。
- ※ 大学進学とともに、高崎に住むことになったが、その高崎で映画にまつわるイベントや活動を知ることができて良かったです。

映画館の変遷や制作や、その興業の背景の話、とても興味深かったです。今回のお話を聞いて、何かしらの形で映画のまち・高崎の活動に関わってみたいと思いました。

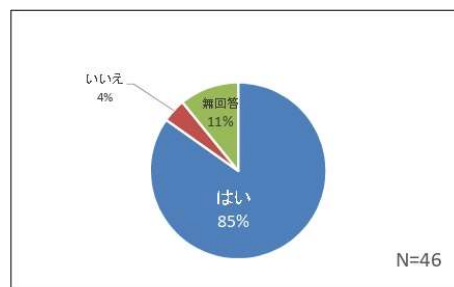
- ※ 群馬・高崎の映画活動の歴史が良くわかった。
- ※ 高崎と映画との強いつながりを学ぶことができた。
- ※ その後、オリオン座、ピカデリーは、どうなったのでしょうか。また、野中興業の株主優待券で安く観た記憶があります。
- ※ わかりやすく歴史を説明されていた点。
- ※ 高崎という土地に、映画の土壌があったことを知れてよかった。
- ※ フィルムコミッションたかさきが、どのような経緯で創設されたのかを知ることができ、より高崎市の文化的側面に魅力を感じた。
- ※ フィルムコミッションやシネマテークなど、高崎市の映画産業などにボランティアでも何でも関わりたいと思った。
- ※ 非常に良い機会になりました。高崎市ってすごい街なんだなぁと誇らしくなりました。
- ※ 映画が好きだったから、上映情報を知ることができたのも嬉しい。
- ※ テーマについて大変わかりやすいお話を聞くことができました。最後に拝見した映像が象徴していると思います。志尾さん及びその仲間たちのこれまでの取組みや情熱に敬服しました。
- ※ 街づくりとの関連性がとても興味深く、フィルムコミッションについてもよくわかりました。講師の方の説明も理解しやすかったです。
- ※ 最近、映画やドラマで高崎が多く使われている事や、私自身、映画が好きなお事から参加しました。非営利で営利を最大の目的とせず、人々に愛される映画を与える側である部分に大きな魅力を感じました。「高崎は群馬の中でも栄えている」という漠然とした印象から、映画のまちだという誇れる地域だという考えに変化しました。

問8. 問6で「どちらともいえない」「不満」「大変不満」と
お答えいただいた方の理由

- ※ 事実をただ陳列しているだけだった。

問9 地元学にまた参加したいか

	【単位:人】
はい	39
いいえ	2
無回答	5
合計	46



問10 取り上げてほしい高崎市の歴史・民俗、現状の問題・課題等、
また事務局への要望、お気づきの点など

- ※ 時々参加させていただいているが、毎回、テーマや講師の方がとても良いです。
- ※ 選挙について、男女共同参画社会について。
- ※ 高崎の食についての講演があったら面白いなと思います。高崎市独自のものとしては、「絶メシ」があると思うのでそういったものを取り上げてもらえるか聞いてみたいです。
- ※ 「高崎」と映画、文学、芸術、芸能等の「文化」とのつながりに、こだわった企画を希望します。
- ※ ・FAXの申込用紙をチラシの裏につけてもらえるか申し込みがしやすいです。
- ・高崎の自由民権運動、群馬事件。
- ・土曜日に実施してもらえるかありがたいです。

2023年度あすなろ市民ゼミアンケート調査結果報告

	9/13	9/27	10/11	10/25
各日受講者数	5	4	3	2
アンケート回収数	4	4	2	2

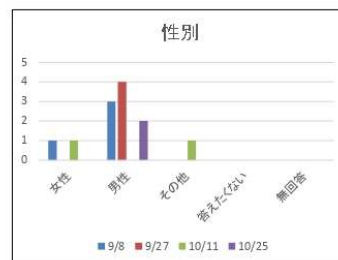
【単位:人】

各回のゼミ終了時にアンケート用紙を渡して後日返送してもらった。

問1. 性別

	9/8	9/27	10/11	10/25
女性	1	0	1	0
男性	3	4	0	2
その他	0	0	1	0
答えたくない	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

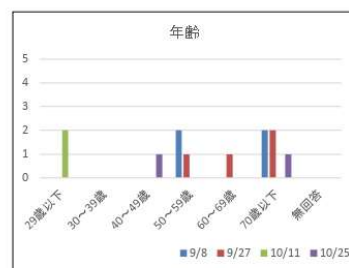
【単位:人】



年齢

	9/8	9/27	10/11	10/25
29歳以下	0	0	2	0
30～39歳	0	0	0	0
40～49歳	0	0	0	1
50～59歳	2	1	0	0
60～69歳	0	1	0	0
70歳以下	2	2	0	1
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

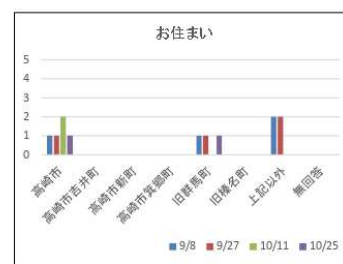
【単位:人】



お住まい

	9/8	9/27	10/11	10/25
高崎市	1	1	2	1
高崎市吉井町	0	0	0	0
高崎市新町	0	0	0	0
高崎市箕郷町	0	0	0	0
旧群馬町	1	1	0	1
旧榛名町	0	0	0	0
上記以外	2	2	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

【単位:人】

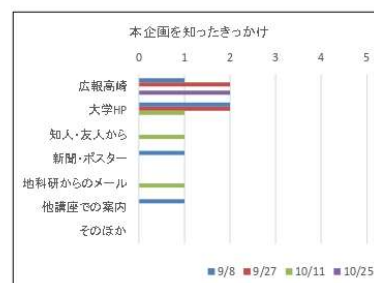


※ 上記以外・・・前橋市、伊勢崎市

問2. 本企画を知ったきっかけ (複数回答可)

	9/8	9/27	10/11	10/25
広報高崎	1	2	0	2
大学HP	2	2	1	0
知人・友人から	0	0	1	0
新聞・ポスター	1	0	0	0
地科研からのメール	0	0	1	0
他講座での案内	1	0	0	0
そのほか	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0

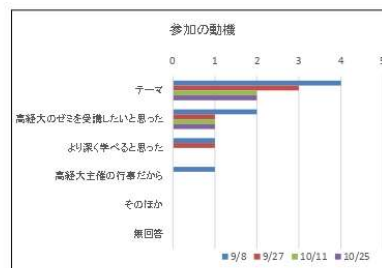
【単位:人】



問3. 参加の動機 (複数回答可)

	9/8	9/27	10/11	10/25
テーマ	4	3	2	2
高経大のゼミを受講したいと思った	2	1	1	1
より深く学べると思った	1	1	0	0
高経大主催の行事だから	1	0	0	0
そのほか	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0

【単位:人】

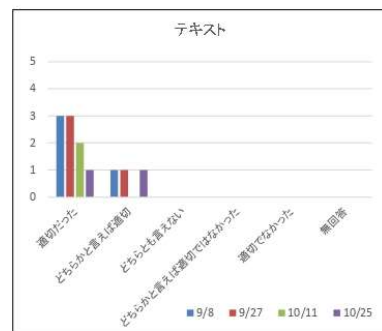


問4. 受講の感想

1) テキストは適切でしたか

	9/8	9/27	10/11	10/25
適切だった	3	3	2	1
どちらかと言えば適切	1	1	0	1
どちらとも言えない	0	0	0	0
どちらかと言えば適切ではなかった	0	0	0	0
適切でなかった	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

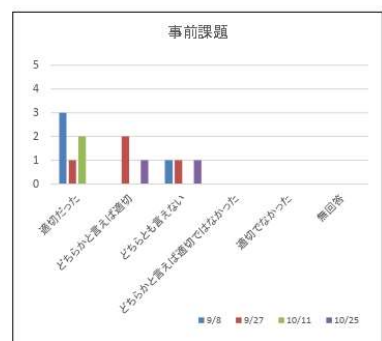
【単位:人】



2) 受講前の課題は適切でしたか

	9/8	9/27	10/11	10/25
適切だった	3	1	2	0
どちらかと言えば適切	0	2	0	1
どちらとも言えない	1	1	0	1
どちらかと言えば適切ではなかった	0	0	0	0
適切でなかった	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

【単位:人】

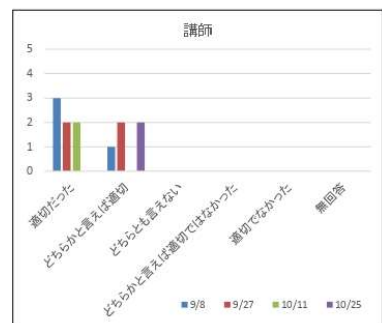


- ※ 参加者の論点が多岐に渡っていたので、議論を深めることが難しい感じのゼミでした。テキストの何ページにこの論点についてどう考えるか、等事前課題で論点の絞り込みををしていただければ良かったと思われます。
- ※ 参加者が話し合うためには、ある程度の論点の絞り込みが必要です。その絞り込みのための事前課題が必要であると思います。
- ※ 論点を求められたが、論じる理由が重要だと思うので、論点の理由もセットで聞かれないと疑問が残る議論に陥るのではと思いました。

3) 担当講師のゼミ授業は適切でしたか

	9/8	9/27	10/11	10/25
適切だった	3	2	2	0
どちらかと言えば適切	1	2	0	2
どちらとも言えない	0	0	0	0
どちらかと言えば適切ではなかった	0	0	0	0
適切でなかった	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

【単位:人】

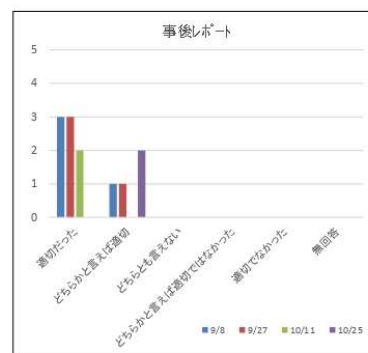


- ※ 専門とされている分野を語って頂けた方がいいのではと思いました。

4) 事後レポートの課題は適切でしたか

	9/8	9/27	10/11	10/25
適切だった	3	3	2	0
どちらかと言えば適切	1	1	0	2
どちらとも言えない	0	0	0	0
どちらかと言えば適切ではなかった	0	0	0	0
適切でなかった	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	4	4	2	2

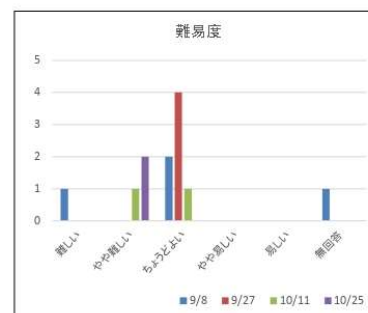
【単位:人】



問5. 受講された市民ゼミナールの難易度について

	9/8	9/27	10/11	10/25
難しい	1	0	0	0
やや難しい	0	0	1	2
ちょうどよい	2	4	1	0
やや易しい	0	0	0	0
易しい	0	0	0	0
無回答	1	0	0	0
合計	4	4	2	2

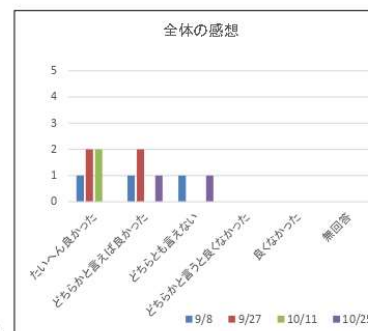
【単位:人】



問6. 受講を終えられたの市民ゼミナール全体の感想

	9/8	9/27	10/11	10/25
たいへん良かった	1	2	2	0
どちらかと言えば良かった	1	2	0	1
どちらとも言えない	1	0	0	1
どちらかと言うと良くなかった	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0
合計	3	4	2	2

【単位:人】

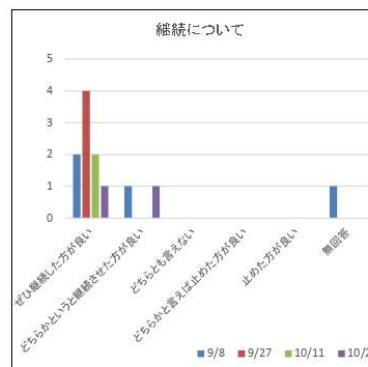


- ※ きっかけ作りとしては良いが、ビジネスがどう変わるか、の議論に行けなかったかな、と思います。その点で今回のゼミの難易度が難しい、としました。
- ※ 先生の専門とされている分野から、高崎市に対して先生が考える課題について議論して下さい方がいいのでは。

問7. この市民ゼミナールは今後も継続した方がよいですか

	9/8	9/27	10/11	10/25
ぜひ継続した方がよい	2	4	2	1
どちらかという継続させた方がよい	1	0	0	1
どちらとも言えない	0	0	0	0
どちらかと言えば止めた方がよい	0	0	0	0
止めた方がよい	0	0	0	0
無回答	1	0	0	0
合計	4	4	2	2

【単位:人】



問8. 市民ゼミナールで取り上げると良いと考えられるテーマがあれば教えてください

- ※ 公共交通機関の発展する方法
- ※ 地域活動の取組み
- ※ 地域課題の捉え方と解決方法を考えるきっかけ作り
- ※ 平成の大合併の功罪について深掘りして欲しい。多方面での視点替えて願いたい。
- ※ ゼミの方法として、公開講座で取り扱ったテーマの深掘りゼミ。公開講座をより深く考え理解できます。
- ※ 地域の自治会活動
- ※ 新NSA
- ※ 群馬の歴史について学ぶ、名所や遺跡、博物館や美術館を訪れてみる。教育について。デジタル社会について。性の多様性について。伝承の継承について。選挙について。
- ※ 楽しかったです！ありがとうございました。
- ※ どこでもそうだと思いますが、巷の人々はニュース・新聞の経済欄を読めていないと思っています。正しく自分で理解し考えられる市民を増やす取り組みを実施してもらえると、経済というモノを語らない自分としては、とてもありがたいです。
- ※ 地域の自治会活動について

問9. 本学の市民向け事業全般について、ご意見がありましたらお聞かせください

- ※ 大学公開講座で取り上げた内容を深掘りする。公開講座+市民ゼミのセットプランがあると面白いと思います。講師の方とのティーパーティみたいな位置付け。
- ※ あすなろ2回目ですが、人数がもう少し増えた方が色々な意見交換が出来ると思います。アフターではないですが、後日改めてもう一度意見交換の場を設けるのも一考かと。
- ※ 参加して下さった市民の皆様と講座やゼミ、イベントの1回きりではなく、その後も関わりたいので、ネットワークを作って欲しいです。

地域科学研究所動静

- ・地域科学研究所紀要『産業研究』第59巻第1号を発売しました。今号では、論文2本、研究ノート1編、資料1編を掲載しました。本学ホームページ（リポジトリ）よりご覧頂けます。

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍で制限されていた多くのことが解禁となる中で、多くの方が地域科学研究所の講座・イベントにご参加くださり、嬉しく思っております。今号でとりあげました講座、市民ゼミでも、ご参加いただいた皆様の熱心に学ぶお姿に身が引き締まる思いを感じております。

引き続き、より多くの皆様にご参加いただけるよう、事務局一同準備を進めて参ります。

(SI)

高崎経済大学地域科学研究所

ニュースレター No.22

発行 2024年1月5日

群馬県高崎市上並榎町 1300(〒370-0801)

TEL(027)344-6267 FAX(027)343-7103

E-mail : chiikikagaku@tcue.ac.jp

©TIRS